

2013年6月21日

公益社団法人 宇治市観光協会
会長 北村 善宣 様

宇治・世界遺産を守る会
代表世話人 須田 稔

塔の島上流の鋼矢板締切による水質汚濁問題発生に関して
淀川河川事務所に早急なる対応を要請することについて

貴職におかれましてはご清祥のことと存じます。

さて、塔の島上流の鋼矢板締切によって深刻な水質汚濁問題が発生しています。

「鋼矢板を打ち込んだ最上流は石を積み上げて締め切り堤状態で、派流側のほうが水位が 30 センチほど高く、宇治川本流に派流の水が流れ込んでいます。その水は白濁し悪臭がします。」との通報があり、6月14日に現地調査しましたところ、大変な水質汚濁が起こっています。

鋼矢板締切により、水が滞留することに加えて、雑排水の流入が加わり汚濁が進んでいるものと思われます。水は白濁緑色で透明度はほとんどありません。最上流端から宇治川本流へと汚濁水が流入しています。目視できる水質汚濁区域の下流端は、今回の工事で撤去された塔の川締切堤の直上流部です。その下流の塔の川の辺りは、導水管からの流入水で汚濁は希釈されているように見えます。しかし、このままいけば、かつての塔の川のように藻の大量発生が起り、悪臭発生もあり得ると推察します。鵜飼の鵜の健康状態にも影響するのではないかと懸念されます。

川を締め切れれば水が滞留し、さらに汚染水が流入すれば、水質が悪化し、水質汚濁、藻の異常繁殖、悪臭の発生は避けられないでしょう。

塔の川（派川）では、締切堤（2000年設置、2012年撤去）を設置した後に、塔の川への流入水が毎秒3トンへと極端に減少した結果、藻の異常繁殖と悪臭が発生する事態が起りました。今回は、塔の島上流に延長240mの範囲に工事用鋼矢板を打ち込み、これを撤去せずに、導流堤（環境・景観破壊と流下能力増大に逆行）といって残そうとすることが原因です。かつての塔の川の藻の異常繁殖と悪臭発生が、塔の川の範囲を超えて鋼矢板で締め切られた上流の宇治川本川左岸側一帯で起りうる可能性があります。

鋼矢板締切による導流堤設置計画が、環境と景観を壊すことになると、3月8日の段階で、淀川河川事務所に指摘してきたところですが、現状はその指摘が当たってしまったということです。

私たちは、塔の島・橘島のサクラ並木伐採中止、島の改変工事中止を求め、6月最終週に淀川河川事務所に対して3回目の署名提出と申し入れを行います。その際に、鋼矢板締切による水質汚濁の解決を求める所存です。

貴職におかれましては、宇治の観光を守り育てる立場から、鋼矢板締切による水質汚濁問題の解決を厳しく淀川河川事務所に求めていただくことをお願いします。併せて、さらなるサクラ並木伐採中止と不必要な島の改変工事中止を求めていただきますよう、お願いいたします。

また私たちと懇談の場を設けていただければ幸いです。

以上

宇治・世界遺産を守る会
〒611-0033 京都府宇治市大久保町北ノ山11-1 藪田秀雄方
Tel & Fax 0774-48-2472
e-mail Hideo.Yabuta@mc2.seikyuu.ne.jp

2013年6月14日
鋼矢板締切の上流端
汚濁水が締切部分から本流へ流れ出し、水質汚染・汚濁が広がっている。これ自身が水質汚濁防止法違反の恐れ。



鋼矢板締切の内外では水質汚濁の差は歴然。汚濁のために透明度はほとんどない。



鋼矢板締切の下流端
水質汚染・汚濁が広がっている。塔の川締切(2000年設置、2012年撤去)跡から下流は、導水管からの水でかろうじて汚濁が希釈されている様子。

